

今ドイツに来ています。

今回訪れたのは、南ドイツに位置するホーエンローエ地方。城壁の残る古い都市と、畜産やワインを中心とした農村からなる地域です。なだらかな丘陵に畑がパッチワークのように広がる中、たくさんの取り組みが行われています。

特産品の豚を学校に連れて行つての「食農教育」。地元のものにこだわった「地産地消」の直売所。農家民宿を中心とした「グリーンツーリズム」。景観保全サークルが主体の「ピオ

きょうの 発 言

トープ」管理。婦人会による「地元案内人」。バイオマスなどの「新エネルギー生産」などです。

これらの住民による取り組みが、地元農家の収入や雇用増に直接つながっています。個々の発想は、最近日本でも盛んに試みられているものと全く同じです。それもそのはず、ドイ

ドイツ農村の取り組み

大津 耕太（農業）

ツの農業と農村を取り巻く状況は日本とそっくり。農産物価格の低迷、高齢化、世界的競争の激化、BSE（牛海綿状脳症）、流通業界のスキャンダル、不景気、失業問題、国や自治体の財政難…。

したりするほか、各種申請の手伝いなどもしています。これはドイツで試験的に行われている事業で、ホーエンローエを含め全国でモデル地域が十八カ所選ばれています。

自分たちの原風景やふる

そんな中、国は住民の活動を活性化するためのコーディネートを行う組織に対する支援を行っています。

さを守りたいという思いは、国境を超えても同じです。そのためには地域の自立が不可欠。日本でも「地方財政改革」や「平成の大

コーディネーターは、さまざまな住民グループのアイデアを実現するため、助言を与えたり、助成金を出

合併」など大きな流れの中で、「地域の力」が試される時代が来ています。